

2025年1月31日

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘保育専門学校
2024年度教育課程編成委員会報告書

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘保育専門学校
教育課程編成委員会
委員長 今村雅彦

2024年度、教育課程編成委員会を実施しましたので、下記の通り報告します。

1 委員総数 〈13名〉

横浜国立大学教育学部教授	園田 菜摘
横浜国立大学教育学部教授	藤井 佳世
東俣野幼稚園園長	川戸俊一郎
認定こども園はらのこはら幼稚園園長	石井 和則
育和幼稚園園長	森谷 恭子
八幡橋幼稚園園長	秋山菜穂美
聖ヶ丘保育専門学校	校長 今村 雅彦
”	副校長 渡辺 潤一
”	事務長 渡邊 慶信
”	教務部長 黒石 憲洋
”	就職指導部長 亀田 良克
”	学生指導部長 竹内 真悟
”	実習指導部長 岸本 圭子

2 教育課程編成委員会開催日時

第1回 2024年9月4日(水) 16時～17時30分

第2回 2024年9月25日(水) 16時～17時30分

〈開催場所〉 聖ヶ丘保育専門学校 1階 会議室

3 委員会次第

第1回委員会次第

(1) 学校長挨拶

(2) 委員紹介

(3) 2023年度教育課程編成委員会報告書の対応状況

- (4) 質疑応答
- (5) 次回議事内容及び日程等
- (6) その他

第2回委員会次第

- (1) 2024年度教育課程改善方策（案）
- (2) 質疑応答
- (3) その他
- (4) 学校長挨拶

4 議事報告

2024年度教育課程編成委員回改善報告（別添資料参照）

2024年度教育課程編成委員会改善報告

学校法人聖ヶ丘学園
 聖ヶ丘保育専門学校
 教育課程編成委員会委員長
 今村雅彦

項目	現在の状況報告	委員からの提言	今後の対応措置
① ICT 機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度の見学届および受験届に Google Classroom から求人情報を入手したか否かを記入する欄を設けている。 ● コロナ禍より利用を開始した学習管理システム LMS (Google Workspace) の利用を継続しており、各科目における利用も徐々に拡大してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 求人票の閲覧状況を調査し今後につなげると良いのではないかな。 ● 就職後を見据え、ICT 機器操作の習得を目指してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● LMS の利用を拡充していく方向である。 ● パソコンの使用方法など、授業を通じて学んでいく。
② 学生のコミュニケーション能力について	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度からフットサル同好会を部に昇格し、ほかに文化系を含めて3つの同好会(サークル)を立ち上げて学科・学年を越えた課外活動を補助している。 ● 文化祭での有志発表・展示を奨励し、学友会活動として活動費などの助成を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 行事や実習前のグループワークを通して人間力の向上に努めてはどうか。 ● 人間関係を築くためのコミュニケーション能力の育成を目標としてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度に続き、クラスごとの HR を拡充し、行事や実習に向けてグループワークを取り入れていく。また、よりよいグループワークの在り方について、教員間での情報の共有や振り返りの機会を検討する。 ● カリキュラム変更に伴い、より多様な人間関係、コミュニケーション能力を構築でき

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● FD 委員会主催の相互授業参観を今年度は前後期で実施し、教員同士でも情報共有や振り返りの機会を作っている。 		<p>るような行事参加の在り方を検討する。</p>
③ 学校施設の活用に関して	<ul style="list-style-type: none"> ● 月に一度のホームルームを継続的に実施している。 ● 2024 年度の新入生オリエンテーションでも校内探索を実施し、図書室等各施設の説明や使い方をレクリエーションに絡めて行った。 ● サークルや個人による楽器練習のため、ピアノ室の開放を行った。 ● 継続的にカウンセリングを開設している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● カウンセリング開設日の告知を担当やホームルームを活用してはどうか。 ● 学生が学校施設をどのように使用したいのか、学生に尋ねてみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行の方法に加え、ホームルーム時に担任からカウンセリング日程について告知する。 ● 学生生活の充実を目指し、学生に施設の使い方に関して、調査を検討する。
④ 文章力の低い学生への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ● 一年次の授業内で高等教育の意識付けを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章能力向上に注力せず、表現力の向上を目指してはどうか。また、文章を書くだけでなく、伝わる文章・誤解をうける文章を比較させ、学生に確認してもらうのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの演習・実技授業にて表現力の向上を図っていく。特に教育保育実践演習において表現力に加え、プレゼンテーション能力の向上を図る。パソコンでも記録できるように、日誌や指導案などフォーマット作成を検討課題とする。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習日誌はPDCA サイクルを意識した記述をさせている。 ● 5W1H に沿った相手に伝わる文章を書く指導を行っている。 ● 実習後の振り返りを重点的に行っている。 ● 実習日誌を本校独自の自由形式に変更している。 ● パソコンで日誌記入ができるか、業者のシステム研修会に実習部全員で参加受講し、可能な取り入れ方を検討している。 ● 実習に於いては、引き続き園からの提案・許可があった場合、写真を取り入れた日誌の推奨をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真の活用も検討されてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習に於いては、園の許可を得た上で日誌にドキュメンテーションを取り入れるよう推奨していく。
<p>⑤ 修学意欲の低い学生への対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新生ピアノレッスンを再開する。 ● AO 入試にて学生生活への展望を問うている。 ● 高校生向けの職業ガイダンスに本校付属園の教職員が参加することで、保育職を希望する学生の意思を強固にする。 ● ホームルーム、保育実践演習、窓口で学生の 	<ul style="list-style-type: none"> ● AO 入試時に入学後の目標を問うてはどうか。 ● オープンキャンパスで卒業生の講演を行うのはどうか。 ● 教員を高校へ積極的に派遣してはどうか ● 学生の悩みを受け止める体制を整備され 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2025 年度AO入試面接時に、入学後の目標に関する質問事項の追加を検討。 ● 2025 年度においても卒業生によるオープンキャンパスを実施する。 ● 2025 年度高校進路ガイダンス等で本校教員の派遣を検討。 ● 担任面談、スクールカウンセラーの紹介等

	<p>機微を捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 管理職宛の意見箱を設置している。 ● 学生の抱える各種問題に対応する分掌を再確認し、各部の独断で対応することのないよう、クラス担任を中心とした情報共有・学生対応のフローを作成中である。 ● 新様式となった履修カルテから3つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)および個人としての目標を記入する欄を設け、「教育保育実践演習」の授業内で、自身の達成度と卒業までの課題を明確化する機会を設けている。 	<p>てはいかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● きめ細かく学生の対応をすると負担が増えるため、対応者へのケアを今後検討してはいかがか。また、学生対応を個人の力量に任せるのではなく、システム化・マニュアル化してはどうか。 ● 個々の目標とする保育者像をサポートできるようにになるとよいのではないか。 ● 入学後のホームルーム等で個々の目標を発表させてはどうか ● 学校が求める保育者像と学生の理想とする保育者像を確認しながら、卒業するまでに学生本人に考えてもらうのはどうか。 	<p>の連携は随時おこなっているが、具体的な対応に繋げられるような体制構築について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生から得た情報の管理は誰が行うかをシステム化する。 ● 担任教員、専門教員、管理者等を含めた、個々の生徒の目標のサポート・チームの実現可能性について検討する。 ● 3つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)について個々の目標の参考となるよう具体的な文言を見直す。履修カルテを活用し、個々の目標発表に繋げる。
<p>⑥ リカレント教育ならびに卒業生の就労実態把握等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度7月期の実習より、2008年度以降に卒業した学生の新卒時内定先リストを作成し、実習巡回時に訪問教員が在籍有無の確認ができるようにしている。 ● 2024年度も、おもち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習依頼時に卒業生の動向調査も行ってはどうか。 ● 卒業生に対し、学習する機会の提供や、働き方に対しての相談の場所の提供があるとよいのではないか。 ● 社会人学生等広く門 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成指標の落と

	<p>ヤインストラクター養成講座及び幼児安全法支援員養成講座を卒業生にも開催・実施した。また、卒業生にオープンキャンパスへ参加してもらったの現場体験談も引き続き開催予定である。</p> <p>さらには、昨年度と同様に同窓会組織を文化祭に招聘して活動してもらうことも検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 後期授業内で卒後の就労状況アンケート調査の実施方法ならびに内容についてアナウンスすることを検討している。 	<p>戸を開いてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卒業後3年以内の卒業生をオープンキャンパスやなでしこ祭に参加させてはどうか。 ● 在学中にアンケートへの回答方法を聴取することで、卒業後のアンケート回答率が向上するのではないか。 	<p>し込みを検討課題とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 在校生同様、卒業生にも勤務の悩みの早期発見を目指し、そのうえで、学びたい講座内容を調査することを検討している。
⑦ その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習期間中は実習部教員が随時学生の対応にあたっている。 ● 実習期間の帰校日の時間の持ち方を再検討している。 ● 学生の実習振り返りでヒアリングした内容や教員が直接対応した際の対応等により、実習先としてのマネジメントにあたっている。 ● ハラスメントに対する基本方針は学園の教職員に向けて打ち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習中の学生を組織的にサポートする体制づくりの検討をされてはどうか。 ● 実習後のグループワークにリスクマネジメントの観点を取り入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 巡回訪問教員のサポート体制を検討課題とする。また、引き続き実習期間中の帰校日において学生のフォローを継続する。 ● 実習の振り返りにおいてリスクマネジメントの観点を取り入れることを検討し実施する。

	<p>出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実習時間を一律8時間としている。別に休憩をいただく場合は、8時間に休憩時間をプラスした実習時間としている。 ● 実習期間のサポート体制として、学校電話受付時間を19時30分まで延長し、直接会話をすることで対応している。 ● 男子学生を受け入れる際に、学校での教育の中身や伝えるべき事、男子ならではの何か学校として取り組むべきことを検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習期間中のサポート体制を持続可能にするためにも、今後のケアを検討してはどうか。 ● 現場での対応や言葉遣い、動き一つひとつを保護者から見られているため、学生時代はよかったものの社会に出たときは通用しないということを伝えてはいかがか。 ● 男女で経験が異なるので、違う考えをお互いに発信する機会を提供してはどうか。 ● 男女で区別する必要はなく、男性の良さを発揮してもらえれば、喜ばれるのではないか。 ● 保護者対応について学ぶ教科はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教科の内容を調査して検討する。
--	--	--	--

以上